

## 高校生訪韓団（第1～2団） 派遣事業の記録

### 1. プログラム概要

【目的・概要】沖縄県及び新潟県から選抜された高校生等 109 名が、11 月 2 日～8 日まで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係の強化に寄与することを主目的として訪韓しました。一行はソウル特別市、京畿道城南市・坡州市・高陽市を訪問し、各種視察、関連講義聴講、関係者との懇談等を通じて、韓国に対する理解を深めるとともに、日本の魅力やプログラム中の学び等について SNS 等で発信しました。

【参加者】日本の高校生等 109 名

【訪問地】韓国（ソウル特別市、京畿道城南市・坡州市・高陽市）

#### 【日程】

##### ■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

10 月 11 日（土） オリエンテーション（プログラム説明）、参加者による対外発信

##### ■ 派遣プログラム：

11 月 2 日（日） 仁川国際空港より入国、オリエンテーション

11 月 3 日（月） 【講義聴講】「最近の日韓関係」、歓迎式、オリエンテーション、【視察】景福宮、光化門広場、ソウル駅（グループ毎にフィールドワーク実施）

11 月 4 日（火） 【視察】国立中央博物館、【視察・文化体験】ワールド K-POP センター、【視察】南山ソウルタワー

11 月 5 日（水） 【学校訪問・交流】第 1 団：培花女子高等学校、第 2 団：大元外国語高等学校  
【交流】ホームステイ対面式

11 月 6 日（木） 【交流】ホームステイ解散式、【視察】非武装地帯（DMZ）、【企業訪問・視察】現代モーターススタジオ高陽、【視察】明洞（グループ毎にフィールドワーク実施）

11 月 7 日（金） 【視察・文化体験】韓国民俗村、【講義聴講】「手で花を咲かすハングル」、成果報告会

11 月 8 日（土） 仁川国際空港より出国

## 2. 記録写真

	
2025 年 11 月 3 日【講義】「最近の日韓関係」	2025 年 11 月 3 日【視察】景福宮
	
2025 年 11 月 4 日【視察】国立中央博物館	2025 年 11 月 5 日【学校訪問・交流】培花女子高等学校
	
2025 年 11 月 5 日【学校訪問・交流】大元外国語高等学校	2025 年 11 月 6 日【企業訪問・視察】現代モータースタジオ高陽
	
2025 年 11 月 7 日【講義】「手で花を咲かすハングル」	2025 年 11 月 7 日 成果報告会

### 3. 参加者の感想（抜粋）

#### ◆ 日本 高校生（1 団）

ホームステイ先、現地の学校での学生とのコミュニケーションを通して文化交流を行えた点が良かった。お互いの学校や部活動、教科について韓国語で教え合い、また、実際に韓国に来て感じた魅力も伝えることができた。現地の家庭での交流では、韓国語力の成長と、韓国文化や習慣への理解を深める良い機会となった。韓国語は、沖縄に住んでいると、英語のように実際に使う機会がないので、今まで勉強してきた韓国語を駆使して現地の家族と交流し、韓国語でお互いの文化を教え合うとても貴重な経験となった。

#### ◆ 日本 高校生（1 団）

学校訪問では、学生の皆さんが温かく迎えてくれた。言葉の壁があっても互いに話そうと努力すれば伝えることができるし、コミュニケーションをとれることを実感した。交流学生が同い年ということもあり、お互いの国の流行なども共有できた。

#### ◆ 日本 高校生（2 団）

一週間を通じて韓国の歴史、文化等への理解が深まり、韓国の人々の優しさに触れて感動した。中でも、自分にとっての初めてのホームステイは、日本人だからという差別があるのではないかと心配していたが、全くそのようなことはなく、国の違いを超えてかけがえのない思い出を作ることができた。これからも韓国についてもっと知りたいし、今回できたつながりを大切にしたい。

#### ◆ 日本 高校生（2 団）

普通の旅行では体験できない韓国の高校生との交流や実際に日本が好きな韓国人に会うこともでき、とても嬉しく学びの多い一週間だった。特に、韓国の人と接することにより、初めて知る細かい文化や特徴等にも気付くことができ、人的交流から一番学ぶことが多かったように思う。また、DMZ でこれまでの戦争の悲しみと未来の平和への希望を感じられ、とても貴重な経験になった。

### 4. 受入れ側の感想（抜粋）

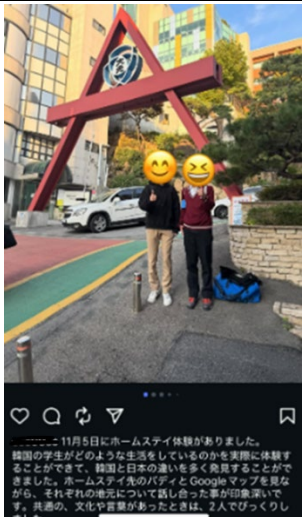

#### ◆ 培花女子高等学校関係者

沖縄県の生徒の皆さんとの交流を通し、本校の生徒たちは沖縄に対して深い親近感を抱くようになりました。沖縄を代表する皆さんが準備してくれた、沖縄の言語、芸術、歴史についての発表には、深い感動を覚えました。両国の生徒たちは、美術の時間に体験した景福宮サンキャッチャー作りや螺鈿鈴作り、そして人格教育の講義を通して、お互いの伝統文化について語り合い、協力と思いやりの大切さを学ぶ貴重な時間を過ごしました。短い日程の交流ではありましたが、心と心が通い合う大切な友情を築くことができました。今後も、両国の高校生が開かれた心で互いの文化を尊重し、かけがえのない縁をつないでいく交流が、より一層活発になることを心より願っております。

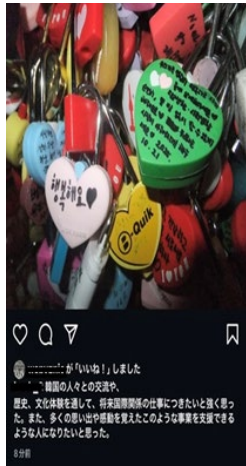
## ◆ 大元外国語高等学校関係者

私共の学校には、新潟県の4校から49名の高校生が訪問しました。私共の高校には日本語専攻の生徒が各学年50名ずついますが、その生徒にとっては日本の高校生と直接交流できる良い機会となりました。日本の高校生の明るい表情と端正な態度、そして積極的な姿勢が、今回のプログラムを準備した私共の高校の生徒と教員にとって大きな充実感と喜びを与えてくれました。別れの時には、寂しさから涙を流す生徒も目につき、短い1泊2日の日程ではあるものの、高校生の皆さんにとっては深い印象を与える良い機会になったと思います。引率の先生方も、生徒の全ての活動に休まず参加される等、熱い思いを目のあたりにすることができ、お陰様で私たちも今回の行事を無事に終えることができました。

## 5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
<p>2025 年 11 月 5 日（Instagram）</p> <p>（抜粋）学校訪問とホームステイで、韓国の学生がどのような生活をしているのかを実際に体験することができ、韓国と日本の違いを多く発見することができました。ホームステイ先のバディとGoogle マップを見ながら、それぞれの地元について話し合ったことが印象深いです。共通の文化や言葉があったときは、2人でびっくりしました。</p>	<p>2025 年 11 月 6 日（Instagram）</p> <p>（抜粋）ホームステイでは、韓国の家庭での生活習慣や、文化を知ることができました。改めて、このプロジェクトを通して日韓関係をもっと良くしていきたいと思いました。日本でもたくさん情報発信をしていきます。</p>





2025 年 11 月 7 日 (Instagram)

〔抜粋〕 歴史、文化体験を通して、将来国際関係の仕事につきたいと強く思いました。また、多くの思い出と感動を覚えたこのような事業を支援できるような人になりたいと思いました。



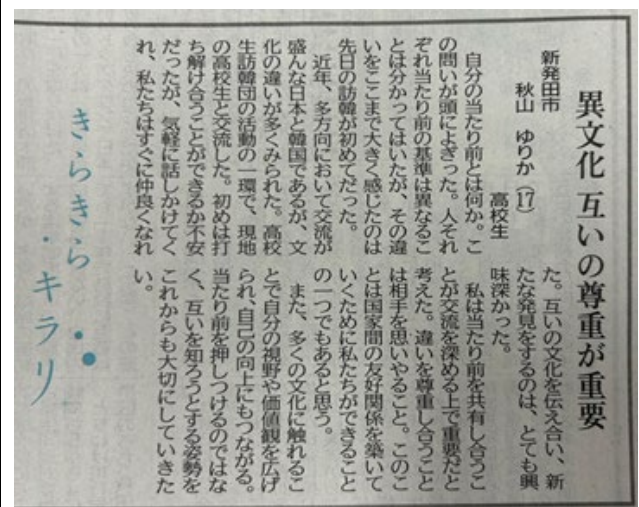
2025 年 11 月 7 日 (Instagram)

〔抜粋〕 韓国は「近くて遠い国」と言われていて、文化などは一見似ているように見えるけど、この訪韓団で多くの違いを学べました。韓国は超学歴社会で中学生から一生懸命勉強します。私も勉強を頑張ろうと思います。みんな積極的に日本語でコミュニケーションを取ろうとしてくれて嬉しかったです。



2025 年 11 月 29 日 (新潟日報朝刊)

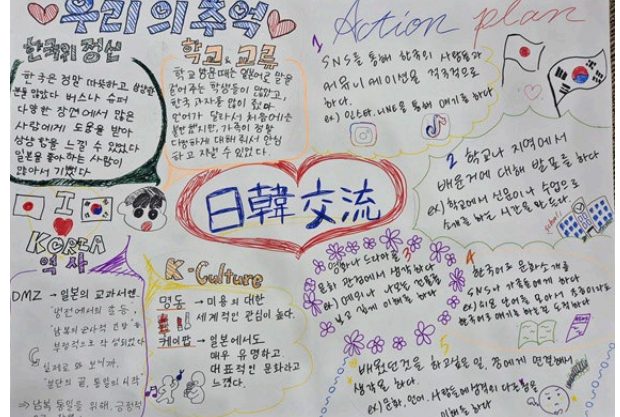
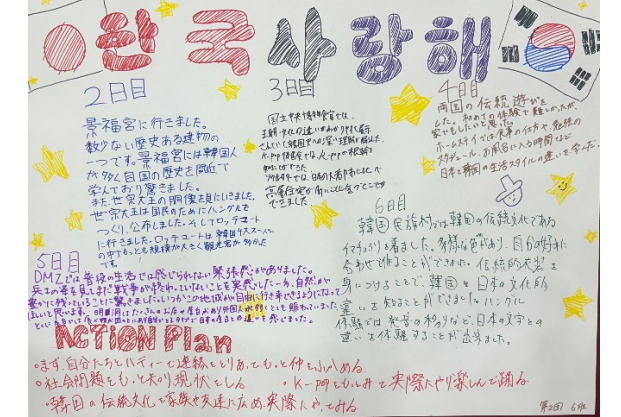
「韓国での体験生かしたい」〔抜粋〕 今回、一週間という長いようで短い間の訪韓だったが、たくさんの学びが得られた。どこに行っても新発見だけでなく、日本との違いに驚かされて刺激的な時間を過ごすことができた。(中略) 得られたつながりを、今回だけで終わらせるのではなく、これからもずっと続けていきたいと思った。



2025 年 12 月 4 日 (新潟日報朝刊)

「異文化 互いの尊重が重要」〔抜粋〕 私は当たり前を共有し合うことが交流を深める上で重要だと考えた。違いを尊重し合うことは相手を思いやること。このことは国家間の友好関係を築いていくために私たちができることの一つでもあると思う。(中略) 当たり前を押しつけるのではなく、互いを知ろうとする姿勢をこれからも大切にしていきたい。

## 6. 報告会での訪韓成果とアクション・プラン発表（概要または抜粋を記載する）

	
<p>【成果の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日韓両国には相違点がたくさんあったが、互いの文化を尊重していく姿勢が大切だと学んだ。これを機に、日韓の交流の輪を広げていきたい。</li> <li>・DMZ 訪問を通して朝鮮半島分断の現実を目の当たりにし、平和の大切さを改めて感じさせられた。</li> <li>・企業訪問では、CO2 排出削減や環境に優しい電気自動車の開発などの取組みを視察する中で、技術の進化と課題を学ぶことができた。</li> <li>・韓国では家族でも年上の人には敬語を使っていた。儒教文化の影響が色濃く、日本よりも年長者を敬う上下関係重視の文化が厳格に守られていることを知った。</li> </ul> <p>【アクション・プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪韓を通して学んだことを学校や地域で発表し、日韓交流の重要性を伝える。</li> <li>・韓国語を活用しながら SNS で日本文化を発信する。</li> <li>・訪韓中にできた韓国の友人に、日本の日常や学校生活を伝えながら交流を続ける。</li> </ul>	<p>【成果の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景福宮や世宗大王銅像、韓国国立中央博物館等を視察して、韓国の歴史はもちろん、日本との関係等も学ぶことができ、より深い韓国理解となった。</li> <li>・DMZ では普段の生活では感じられないぐらいの緊張感があり、韓国兵の姿も目にし、朝鮮半島ではまだ戦争が終わっていないことを実感した。いつかこの地域は自由に往来できるようになってほしいと思った。</li> <li>・その他、日韓における学校文化の違い、食文化の違い、住宅や生活文化の違い、伝統遊びや伝統衣装の違い、文字の違い等、様々な日韓の違いについて学ぶことができた。</li> </ul> <p>【アクション・プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問で出会ったバディと積極的に連絡を取り合って仲を深めていく。</li> <li>・日韓の共通の社会問題等にも関心を向け、現状を把握すると共に、解決策についても学ぶ。</li> <li>・今回の学びを家族や学校に伝えると共に、一緒に体験したり、韓国へ行くことを積極的に勧める。</li> </ul>

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金